

## 令和3年度第1回岡崎市環境審議会 会議録

### 1 開催日時

令和3年7月14日(水)午後2時から午後3時まで

### 2 開催場所

岡崎市役所東庁舎2階大会議室

### 3 内容

- (1) 辞令交付式
- (2) 生物多様性おかざき戦略の中間見直しについて(諮問)
- (3) その他

### 4 出席委員の氏名(五十音順)

- (1) 出席委員  
浦野友一、江坂さとみ、河江喜久代、香坂玲、佐谷智、時々輪忠正、杉原毅、  
鈴木純子、鈴木芳博、竹内恒夫、永田和之、丸山泰男、渡邊幹男、山中賢一
- (2) オンラインによる出席委員  
杉山範子、長尾茉紘
- (3) 欠席委員  
橋本啓史、長谷川えり子

### 5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長 柴田清仁、環境部次長兼環境政策課長 新井正徳、環境政策課環境施  
策係係長 森本徳恵、同主事 小澤有司

### 6 出席した事務局の職氏名

環境政策課副課長 古瀬川英樹、同主事 丸尾恵吏加、同主事 伊藤駿

### 7 市長挨拶

### 8 辞令交付

### 9 議事要旨

- (1) 生物多様性おかざき戦略の中間見直しについて(諮問)  
事務局より生物多様性おかざき戦略の中間見直しについて説明した後、質疑応  
答がなされた。

(環境政策課)

## 諮問書及びスケジュールの説明

(丸山会長)

何か質問はあるか。

(香坂委員)

地域戦略については、大変先進的にやられていると思う。全国状況を報告すると、今年2月に47都道府県の生物多様性戦略が出そろい、策定された。政令市は、20都市のうち19都市、市町村は98都市となっており、岡崎市もその中の1つである。全国的にみてもかなり先進的なポジションにいる。自分も、いろいろなところで岡崎市の戦略について発信している。国際的なスケジュールと合わせてみても、おそらく違和感はないと思う。

生物多様性条約の事務局も、いくつかの数値目標を組み込んだポスト愛知目標の原案を近々発表すると思う。おそらく、国だけがやっていく戦略だけではなく、自治体や民間企業が持っている緑地を守らなければならないというものが戦略に入っていると思うので、岡崎市も積極的にやっていければと思う。

国家戦略は、研究会が終わりこれから中央環境審議会にあげていくというところまでできている。

(竹内委員)

2012年1月の生物多様性おかさき戦略概要版に掲載されている、「本市の条例や計画等によるこれまでの取組み」について。平成20年の「岡崎市水環境創造プラン」のなかに、生き物についての事項がかなりあったと思う。このプランと生物多様性おかさき戦略は現在統合されているのか、それとも今後統合されていくのか。

(環境政策課)

整合性を持った形で進めていくため、統合は考えていない。

(丸山会長)

このプランは、額田地域に降った雨がどれだけ流出するか等を組み込んだものであり、生物の種を守るという目的はなく、将来の望ましい水環境を実現するための取組みをまとめたものである。

(長尾委員)

生物多様性おかさき戦略概要版について。「推進体制」の箇所に「市民は、生物多様性の重要性を認識するとともに、その日常生活において、ライフスタイルを生物多様性の保全と調和のとれたものに転換する必要があります。」と書かれている。別のページでも「生物多様性の重要性を理解して、その恵みに感謝し、生物

多様性の保全に配慮した行動を起こす市民、事業者を育てる施策が必要です。」と書かれている。市民に対して呼びかけや啓発ももちろん大事だと思うが、私たちのような若い世代は、SDGsを推進していかなければならないということを理解はしているが、行動に移すきっかけを見つけれなかったり、政策との距離を感じている。例えば、レジ袋が有料になるなどは自分の行動の転換に効果があったと実感するので、同じように、市民の行動の転換を促すようなインセンティブを付ける政策を考えているのか、または既にそういったものがあるのか教えてほしい。

また、開発との共存についても教えてほしい。「地域開発と生物多様性との調和」について具体的な政策があるのか知りたい。例えばパリでは、農薬を使うことを禁止したらミツバチが住みやすい環境となったため、今ではハチミツがパリの名産となっているということを聞いたことがある。岡崎市では、産業への規制はどれくらいかけられているのか、これからかけていくのか。

(環境政策課)

インセンティブを与えるものについて、現状、具体的に示すことができるものはない。ただ岡崎市環境部では、小中学校への出前講座、未就学児に対する「おかざきエコプロジェクト」、環境教育施設において環境学習プログラムを実施している。インセンティブを与える事業は、こういった環境教育を今後推進していくためにも、必要になってくるのではと考えている。

推進体制や開発について、岡崎市では、3,000 m<sup>2</sup>を超える開発について各関係部署と確認を行うこととしている。その中でも環境分野においては、規制や配慮を求めて、環境を守る活動をしている。

(長尾委員)

子どもたちに対する環境学習が充実しており素晴らしい。自然を大切にすることを理解できると同時にその気持ちを行動に移す際、背中を一押しするのがインセンティブであると思うので、ぜひ推進して行ってほしい。

開発規制に関して、現状の規制をもっと厳しくしていかなければならないのかというのをこれから検討できるとよいのでは。

(香坂委員)

農薬について。農林水産省が行っている「みどりの食料システム戦略」で、2050年までに、農薬の使用量をリスク換算で半減させるという目標がある。環境と関わりのある目標であるが、国の振り分けとしては農林水産省が議論の場となる。ただ、そのうえでEUの場合は、生物多様性戦略と「Farm to Fork(農場から食卓まで)」戦略が同時に発表され、その2つの戦略で共通して農薬の規制について、2030年までに「半減」や「有機農業25%」という事項が入っている。生物多様性条約では、農薬の使用量を3分の2に抑えるというのがあり、これから推進されていく。

(竹内委員)

農薬については、水質汚濁農薬など環境に関する観点もあるため、農林水産省だけではなく環境省も関係してくる。

(鈴木委員)

生物多様性おかざき戦略の内容がどれだけ達成されているかをチェックできる指標があるとよい。どれだけの期間にどの程度達成できているべきか明確になっていると、中間見直しの際役に立つのでは。市長の挨拶にもあったように、温暖化防止やカーボンニュートラルは非常に大切な目標であり注目されている。「岡崎市は非常に進んでいる」というのを分かりやすく示すためにも指標が必要であると考えます。

数値目標をみると教育に力を入れているのが分かる。これは大切なことである。2050年と目ざしたら、今の若い世代の教育の成果が出てくるころである。

数値目標だけで具体的な施策を達成できるかどうかというのはもう一度検討する必要があると思う。そして、その数値目標がどの行動戦略と結びついているのかが明確になっているとよい。

(環境政策課)

御提言のとおり、数値目標と具体的な施策が結びついて PDCA がうまく回るように、この見直しにおいてしっかり検討していきたいと思う。

(山中委員)

今回は概要版だけ見ているが、冊子の方には具体的な施策の内容はしっかりと書かれているのか。

(環境政策課)

書かれている。

(鈴木委員)

企業に勤めていた頃、計画を作る際はスケジュールマップを作成していた。達成までの道筋だけでなく、期間も明確にしたものである。これがあると、わかりやすいのでは。

(佐谷委員)

先日の熱海の土砂災害のニュースを観ていると、10年近く5万 $\text{m}^3$ の盛り土が危ないと言われながらも放置されていたそうである。北山湿地に土砂が入り込んでいるという話はどうなっているか。土砂や砂利が入ってきているということは、

どこかで造成が行われていることが原因なのではと心配している。監視を強めてほしい。

また、自分の息子がまだ小さいころ、額田の千万町の川まで連れていき、こういった小川が土の養分や葉の雫を集めて菅生川になり海に流れていくという話をしたところ、とても興味を持った。そういった学習や道德教育は必要であると感じている。

(杉山委員)

生物多様性おかざき戦略概要版の見開き右のページにある「戦略初期段階と中長期目標の設定」について、生物多様性の状態はどのように判断してこのグラフになっているのか。何か指標があるのか。

(環境政策課)

具体的な判断指標はないため、掲載されているものはイメージ図である。岡崎市では、岡崎市版のレッドリストや希少種の調査を実施しているため、動植物の調査によって環境の良好不良を判断しているが、自然界のことであるので長い年月をかけての調査や判断になっていくと思う。

(丸山会長)

佐谷委員の発言について。自分が生物に興味を持ったのは、子どもの頃から親に連れられて魚釣りに行ったり川で水泳をしたりして生き物を実際に見て知ったことによる。学校で勉強したことではなく、そういった体験の影響が大きいと思っている。最近、岡崎市内の池は全部「ここでは釣っていけない」「立入禁止」「よいこはここで遊ばない」ばかりである。「ここで釣りができる」等、自然に親しむ場所が非常に限られてしまっていると感じている。

(渡邊委員)

生物多様性おかざき戦略は、愛知県と名古屋市がそれぞれ策定した戦略に基づいて策定したものである。愛知県は、COP10で策定した目標が全く達成できていない。それを基に作ったものなので、目標を達成するということではなく、まずはとにかく作るということで策定されたものになっている。愛知県がなぜ目標を達成できなかったかという、現場で調査をして現状を知っている人がこの戦略の策定にほとんど携わっていなかったからである。これでは目標を達成できるはずがない。県も5年ほど経ってからそれに気づき動き始めたが、なかなか軌道に乗らず、具体的な数値目標があがってこない。それでも、愛知県は「あいち生物多様性戦略 2030」を作った。これは、現実的に達成可能なものを目標において、それで数値目標を決めていくといった方法で策定している。

先ほどの土砂の流出などの原因はニホンジカの生息数の増加である。山に行くと、下草がほとんどシカに食べられてしまっており、土砂の流出が起こってしまう。去

年起きた熊本県の球磨川も、おそらくニホンジカによって植生が変わってしまったことにより川に土砂が流出し、川底が上がってきてしまい、川の容量が減ったことに起因していると思う。岡崎市の河川でも同じようなことが起きている可能性はある。豊田市がそういった調査を始めている。災害が起きないと、このような調査に予算がつかない。

ニホンジカがどれくらい入ってきて、どれくらい植生がかわってきているか、そういったことも含めた調査を実施しないといけない。こういったことは、調査により数値目標が出てくる。理想論ばかりではなく、数値目標で実際に表すことができるものをまずは詰めていくことから見直しを始めていくのがよいと思う。

教育現場との連携について。教育委員会の環境についての守備範囲は天然記念物である。国レベルで考えると、天然記念物は文部科学省の管轄でありと環境教育は環境省が管轄であるが、それぞれ行っている事業が全く別になっており、まったく連携ができていない状況である。そういう点では岡崎市も同じである。地域からそういった意見をどんどん教育委員会や学校に提言すれば、教育現場も動くのではないか。

先ほどのインセンティブについて。刈谷市はエコポイント制度を実施している。古いものでもいいので、活用し数値目標を作るのも一つの手なのでは。

(環境部長)

多方面からたくさんの御意見をいただいたので、実りのある戦略を策定していけたらと思う。

岡崎市は市域の約6割が森林や山でできているが、森林の手入れが行き届かず、荒れた状態となっている。先ほどの御意見にもあったように、これにより川へ土砂が流出し、水害を引き起こしたり水生生物の生態系にも影響を及ぼしているのが現状である。これらの問題をどのように解決していくかをこれからの見直しで考えていかなければならず、その戦略は実践できるようなものでなくてはならない。

(鈴木純委員)

環境家計簿をととも一生懸命取り組んでいた。点数に応じてくじ引きができ、水筒やトイレトペーパーをもらったりして、とても恩恵を受けていたが、いつの間にか無くなってしまっていた。取り組んでいる最中は「できるだけ水や電気を使わないようにしよう」と努力しており、主婦としてはとてもやりがいを感じていただけに、とても残念に思う。

長年、教師として働いていたので、教育現場の現状をお話すると、総合学習の時間が段々削られており、学校としても環境教育をやりたい気持ちはあるがそれ以外にやらなければならないことがとても多くなっている。外部講師を呼んで授業をやっても半日かかってしまうため、なかなか時間を割くことができない。総合学習の時間が一番盛んな頃と比べると時間数がとても少なく、学校側も環境学習が実施できなくなってきているが、ニュースを観ているとSDGsについて小中学

生の取組みを特集したりしている。きっと岡崎市の教育委員会も SDGs については何か考えていると思うので、児童生徒の学習が進めば環境学習についても本気で取組みを始めるのではないかと思う。

(丸山会長)

議題を部会に付託するという点については意見がなかったため、環境審議会運営規程第7条に基づき、自然環境部会へ審議を付託する。

当案件については、本日付けで自然環境部会へ付託するとし、自然環境部会長の報告がまとまった段階で、環境審議会の全体会において議論していき、最終的な答申は全体会のなかで諮りたいと思う。

(環境政策課)

議題2についての説明

(丸山会長)

質問などあるか。

その他、何かあるか。

(河江委員)

おかざき自然体験の森の入り口に大きな桑の木があったが、切られていた。なぜ切られていたのか。また、来園者が触りそうな位置に、ヤマハゼやヤマウルシ、ヌルデが生えているので、それを伐採した方がよいのでは。

また、ビオトープに外来種を植えた人がいる。何か看板を付けた方がよいのでは。渡邊委員の御意見を聞きたい。

(渡邊委員)

ビオトープを作る時の問題点として、他の地域から在来種をそこに持っていくとビオトープが放置されたときに遺伝子汚染が起こることである。外来種であれば、ビオトープが放置されたときに簡単に駆除できる。例えば、公園を作って植林する際に、周りに生えている樹木と同じものを植えようとする人がいるが、今後のことを考えると全く違う外来種を植えて緑を豊かにするという方がよっぽど良い。外来種が良い悪いとは別の話になるが、分かりやすい例を出すと、ホタルの数を増やすためだけに全く違う地域からホタルを持ってきて放してしまうと、種が滅茶苦茶になってしまう。

自分はビオトープ反対派だが、ビオトープを作るのであれば、一番良いのは環境を整えておきそこに生き物が寄ってくるのを待つことである。とても時間がかかるので待てずに色々な生き物を入れてしまうが、自然というのは短い時間でできるものではないため、待つことが重要であると思う。

(丸山会長)

おかざき自然体験の森は環境部の所管か。

(環境政策課)

そうである。大きな桑の木については、所管外の土地であるため分かりかねる。また、来園者が触ることができる位置にかぶれる木があるというのは、おかざき自然体験の森で環境教育を実施する際、「この季節にこういうのに触るとかぶれる」という、生きていく上での一つの知恵として教えているためである。一概に全て無くすのではなく、教育の側面でも使用していることをご承知おきいただきたい。

(事務局)

今年度の環境審議会はあと2回予定しているが、案件がない場合は開催を見送る。また、自然環境部会の第1回目は10月頃を予定している。

#### 会議資料

岡崎市環境審議会委員名簿

生物多様性おかざき戦略の中間見直しについて(諮問)(写)

生物多様性おかざき戦略の中間見直しスケジュール

生物多様性おかざき戦略【概要版】

岡崎市環境審議会運営規程

岡崎市環境基本計画(第2次)の策定について(答申)(写)

岡崎市一般廃棄物処理基本計画の改定(中間見直し)について(答申)(写)

会長

議事録署名委員